

平成25年度第3回県立長野図書館協議会協議議事録

1 日 時 平成26年2月27日(木) 13:00～15:40

2 場 所 県立長野図書館第1会議室

3 出席者

<委員(五十音順)> 小林いせ子委員、田中春海委員、玉城司委員、塚田芳樹委員、
平賀研也委員、若林恵実子委員

<県立長野図書館> 松本館長、須田企画幹兼次長兼総務課長、池田副参事兼企画協力課長、
北原副参事兼資料情報課長、関専門幹兼資料係長、
長田専門幹兼担当係長、柳沢情報係長、町田主幹、内山主幹、
北村主査、北澤主任

4 会議次第

(1) 開会

(2) 館長あいさつ

(3) 会議事項

ア 「県立長野図書館の今後のあり方」について

イ 県立長野図書館の平成25年度事業実施状況について

ウ 県立長野図書館の平成26年度事業予定について

エ 満足度調査について

オ その他

(ア) 業務用コンピュータシステムの更新について

(イ) 耐震化工事について

カ 意見交換

(4) 閉会

5 会議の概要

(1) 館長あいさつ

ご苦勞様でございます。第3回目の協議会ということで開催をいたしましたところ、委員の皆様におかれましては本当にお忙しい中、また足元の悪い中、協議会においでいただきまして心から感謝申し上げます。今日もよろしくお願ひ申し上げたいと思います。今お話しに出ておりましたが、2月は大変な雪にあいまして県下でも多大な影響が出ました。集落の孤立や、車の中で閉じ込められたという方も大勢

出て、農業被害もかなり多く、被災された皆さんに心からお見舞い申し上げたいと思います。私ども図書館も雪に覆われましたが、なんとか除雪をして通常通り開館することができました。イベント等もやった日もございまして、ちょっと残念でしたけれども通常通りということでございます。周りの雪についてはまだ十分片付けきれていない部分もございましてご迷惑をおかけし、お詫び申し上げたいと思います。また今週は、図書館のコンピュータシステムの入れ換えをやっております、月曜日から休館させていただいております。明日までということで、1日の土曜日から通常通り開館する予定で作業をしているところでございます。

前回の協議会のあいさつの中で、今年度最後の協議と申し上げてましたが、今年はありません方検討をしていただくということで1回多く3回協議会を開催しております。前2回につきましてもあり方について様々なご意見を頂戴いたしまして心から感謝申し上げる次第です。その結果といいますか、その時点での図書館としての考え方、それから協議会からいただいた意見、議事録等をまとめて、教育委員会の方に現在あげております。ただ現在、まだ結論がでておりませんで、私どもも加わる中で現在教育委員会内部で協議が続いているということでございます。従いまして、今回の協議会では、それぞれの意見を踏まえた現時点での図書館側としての考え方を改めて1枚ものにまとめさせていただき、再度ご意見を頂戴しそれを改めて教育委員会に持ち上げて、さらに議論を詰めてまとめていきたいと思っております。引き続き今日もあり方についていろんな面で忌憚のないご意見を頂戴できればありがたいと考えております。それに加えて今年度最後の協議会ということになりますので、今年度事業の主な実施状況、それから来年度、現時点でどんな事業を考えているかということにつきましてもご説明を申し上げ、ご意見を頂戴できればというふうに思います。

前回の協議会のとき平賀委員さんが、その後で横浜に行かれてライブラリーオブザイヤーを見事に受賞されました。改めまして心からお祝い申し上げます。まだ新しい賞ですが、小布施が受賞され今度伊那が受賞されということで長野県の市町村図書館としては非常に誇らしいし、また私どもとしても非常に頼もしい、画期的な事だと思っております。逆に言いますと、私ども県立図書館もそういう図書館がある、それに応えられることをひとつひとつやっていかなければならないと思っております。

従来の課題の反省に立ち、また今回のあり方検討等も踏まえ、できるだけ元気な、まさに前回の協議会でも議論していただきましたが、みんなに開かれた図書館を目指してこれからも職員一同一丸となって頑張りたいと思っております。今日もぜひ忌憚のないご意見を頂戴できればと思います。少し長くなりましたけれども、冒頭の挨拶とさせていただきます。よろしく願い申し上げます。

(2) 「県立長野図書館の今後のあり方」について

事務局資料説明後、質疑応答および意見交換

<玉城会長>

基本的にはこの A3 1 枚にまとめていただいた用紙に沿ってご説明いただきました。背景、現状の問題それから今後の方向性と連動した図式だと思います。何かご質問等ございますでしょうか。

<平賀委員>

県教委とご協議中ということですが、さしつかえなければどんなことが主な議論になったのか、方向性の問題なのか、運用の形態なのか、お金とかそういった問題なのかお聞かせ願いたい。

<須田次長>

県教委との話の中の中心は、最初のこの方向性と具体的な取り組みを最初に話をいたしました。これに関してはこのかたちでやっていくということで一応県教委は了解しました。予算的な部分もまだありますが、内容としてはこれを踏まえていくということで考えています。検討の一番大きな問題、今後図書館の組織体制をどうするのかについては、まだしっかりとした結論が出ておりません。予算のこともありますが、人事案件ということもありまして、どういった形で進めていくかについては、まだ結論がでていないということがございます。組織体制については今後、それに伴う予算の関係もでてくるでしょうし、こちらの方からは館の改修の要望も出しており、それ含めて、これから話し合いをしていくということがございます。

<松本館長>

加えまして、これからこれを外に出していくときに、どうやったらアピールできるのか、皆さんに見ていただくときに、言葉づかいなどもっとインパクトがあって、こんなことをやるんだな、とはっきりわかるような表現はないか、という話がありました。さらに、県教委としては県立歴史館も同じような形で見直しの話が出ている。特に今説明した 3 番 4 番のデジタル化の問題や、資料収集等については歴史館との役割分担をどう調整していくのかということは、私ども図書館だけで決められない事項でもあるし、それも話題にはなっております。

<玉城会長>

図書館協議会としては組織、人事については関与しない方向だというふうに私は理解して進めています。ただし一点だけこちらで提言した、指定管理者制は現時点では積極的には進めないという提言、マイナス提言みたいなきこえるかもしれませんが、それだけは伝わっていますでしょうか。

<須田次長>

そのことに関しては前回の第 2 回目の議事録と共に教育委員会の方に、協議会の委員さ

んの意向としては導入はまだ早い、ということで、指定管理者制度の導入に関しては積極的なお考えではない旨を伝えました。

<玉城会長>

それ以上の事は協議会では扱えない事項かと私は思っています。その辺はご了解いただきたいと思います。では、他に何か質問、問題点等お願いします。数日前に送っていただいておりますのでごらんいただいているとは思いますが。忌憚のないご意見どうぞ。

<小林委員>

2番の今後の基本姿勢と取り組むべき方向性の中の(2)の一番最後に「信州首都圏総合活動拠点における」という文章につきまして、今回初めてでてきたのかなと思うのですが、先ほどのご説明性だと依頼がきたら発信したいということがありましたが、それはこちらの方から発信するべきことではないのかなと思いました。この文章の中で市町村立図書館と共同して朗読、その次の地域に関する本の展示等はわかるのですが、ここにあって共同しての朗読という固有名詞としてはいつてきたのですが、どうしてここに文章がはいってきたのでしょうか。何か背景があるのでしょうか。

<須田次長>

銀座4丁目の4階建てのビルを県で借りて、そのうちの2階に共同スペースで催し物をするという案で設定をされている。7月にオープンすることは聞いているが、ただ担当部局でどう進めるかのしっかりとした情報がまだきておりませので、催し物の形をどうするかは、連絡や問い合わせがありましたらそのとき検討を始めていきたいということで、申し上げました。朗読は、読み聞かせなどがスペースの中でやりやすいのかなということで言葉を入れ込んだもので、ほかに何か企画があれば考えたい。最初は絵本など、それなりの方に読んでいただくという朗読によって長野県のイメージを伝えていきたいということで考えています。

<小林委員>

全体的に書いてある文章は、図書館自体に関する足元の部分の取り組みとか背景とか、とてもうまく作っていただいた。信州首都圏のこれだけがぼっと浮いている。これだけが非現実的な部分に近いと私は気になった。これはまだというところがあるのではないのでしょうか。

<塚田委員>

私は逆に首都圏に行って長野県のプレゼンスをPRすることは非常に素晴らしいことだなと思います。特にデジタル化ということになると、インターネットを利用して全国からアクセスできるようになり、図書館の存在そのものが長野県民だけのものではなくて、世界とはいませんが、日本の中の県立長野図書館という位置づけにできるようになってくる。特に首都圏、銀座は素晴らしいところですが、そういうところで長野県の存在感を高める一助として県立図書館が活動できるとすれば、たいへん素晴らしいし、そういう意味で非常に意義がある。デジタル化ということも含めて、図の中では主に県民なのですが、

全国に向けて発信できる役割を担うところもこれによって出てくるのかなと感じはしています。

<田中委員>

首都圏でということですから、信州へ行くならどこの図書館もすばらしいよということが、発信できるのであれば意味があると思います。ライブラリーオブザイヤーを2年続けて長野県内ですべて持っているということもすごいことで、そういうことを、信州はこうなんだよと一番いい場所で発表できたら、長野へ行ったらどこでもいいから図書館へ行ってみようという雰囲気になるんじゃないかなと思います。

<玉城会長>

これは、知事が最近発表したことなので、積極的にという指示だと思うんですけど。

<須田次長>

これは県をあげてということ、県全体で盛り上げていくという考え方です。県教委もそういう立場からいろいろなことをやりたいと考えている、現段階ではどういう形でいくのかまだわからない部分がありまして、私の方から具体的には申し上げられない部分もありますが、県立図書館を中心にしていろんな方と協力して企画、催し物ができるならば、こういうものができるのではということで文章にしたということです。

<小林委員>

できればそういうご説明は、この文章の前にいつていただきたい。分かりましたが。

<平賀委員>

図書館が図書館以外の団体や組織と連携するといったときに非常に大事なことで、図書館だけじゃないよと、小布施や最近の武雄市がそうですが、図書館が、観光や産業振興やあるいは学校教育やそういった様々な協働をすることで、その土地の地位とか良さとか世界に向けて発信していくことだと思います。ですからこの部分は、銀座の話ではなく、公共図書館に限らず図書館がそういうところと協働して相談することで、信州の良さのPRを推進していくということにして、具体的なものについては後ろの細かい表の方に銀座の拠点の活用という形で整理し、少し言葉のレベルを上げたほうがいいのかなと思います。

<玉城会長>

そういうことをご理解いただいて、これも含めてということですね。

<松本館長>

たとえば企画展のところは一つの例で、これだけではなくもっといろんなことをやらなければいけないということなんだと思います。今、次長の方から申し上げた通り、皆さんも御承知のように銀座に各県のブースがいろいろありまして、長野県が後から出ていくイメージなので、力が入りすぎてしまった部分もあったのかなと思います。もう少し記述の方法を考えさせていただきたいと思います。朗読については本だけ並べておいただけでは、銀座のスペースの中で、もちろん見せ方もあると思うのでそれだけでだめということはないと思いますが、何か立ち止まっていたり見ていただいたりする部分があれば、

たとえば音楽とコラボとかいろいろ考えられると思いますので、もう少し幅広く頭を切り替えてやらなければいけないと痛感いたしました。ありがとうございます。

<玉城会長>

この件についてよろしいでしょうか。もう少し言葉のレベルをあげたい。朗読ポツというのはどうみても非常に違和感があります。点だったらまだいい感じがしますが、発信するという意味だと思いますのでよろしくをお願いします。

<松本館長>

置き場所を、あえてまず公共図書館と連携というふことで1に置いたんですが、2とあわせた部分もあるのでその辺も含めて検討を致します。

<玉城会長>

よろしいでしょうか。他、いかがでしょうか。これは、ホームページ等でもアップするんですよね。県教委の方にももちろん見せるし、県民にも。

<須田次長>

協議会の資料としてアップいたします。

<玉城会長>

そういったとき、いかがなものでしょうか。

<平賀委員>

全体としてはこの表も後ろの表もこれまでの議論を受け止めていただいて、頭の中は私自身も含めて皆さん少しすっきりしたんじゃないのかなと思います。個別の部分であります。基本姿勢の言葉をこういうふうに明記したということは非常に意味がある。先ほど県教委とのお話で、教育長や知事からアピールする言葉はないか、という話がありました。これを踏まえ、課題に行き渡る言葉をうまくつくられたらよろしいのかなと思います。これからの信州人はいかに学ぶべきかというようなことをイメージできるようなことがいいかなと思います。二つ目の取組むべき方向性と具体的取組みですが、一つ目の連携の部分で、連携は過程にすぎないので、その目的、なぜ連携するのかという部分がもうちょっとにじみ出ればいいのかと思います。基本姿勢に何をということが大事ですが、つながるといのは、何のために、ということを少し明記してあるといいと思います。それについていえば、県内の図書館とか図書館職員とか教育施設との協働というものの目指すものは、これからの知る、学ぶということのあり方を、あるいは公共図書館というもののあり方を共に考える、作っていくんだと、そのために協働するんだというニュアンスがどこかに説明してもいいのかなと。それからもう一つは、図書館に限らず信州という地域を認知させ、知っていただき、楽しんでいただくかということについても、いろいろなところと連携することで図書館の役割を全うしたいのだという二つの大きな主旨がどこかに連携とは何なのかという部分で通っていただければいいのかなと思います。

二つ目の課題解決、情報発信ですが、情報発信というのも何のためという部分があります。この二つをくくられたのは非常に意味があることだと思います。基本は地域の課題解

決というものに図書館がいかにかに寄与できるかというくくりだと思います。一つ目は資料を使ってどういうサービスを行えるかということだと思います。二つ目はなかなか図書館のなかには資源がないけれども、地域の皆さんと連携協働することでみんなが課題解決する活動を作り上げていくには、地域の皆さんの情報を扱う力を、情報リテラシーを向上していくことに皆さんといっしょに取り組みたい、ということだと思います。二つ目のタイトルの根本は、課題解決に寄与できる図書館ということかなと思います。

それから三つ目、デジタル化も活用ということをお願いしていたことは大変いいことだなと思います。今までどうしても保存収蔵ということばかり考えていた図書館や美術館にとっても、活用という、二番目のテーマともつながりますが、非常に大事なことだなと思います。もっと活用という言葉が浮き立つように表現してもいいかなと思います。対外的にアピールするということになれば。県民だけでなくて娑婆中の人が信州の情報を自由に扱い、編集し、表現し学ぶことができるようにということかだと思います。全体はそんな感じです。

後、細かなことですが、一個目の連携の在り方なんですが、研修の充実という形に基本なっているんですが、先日、長野県図書館協会の宮下事務局長とメールでやり取りしたんですが、図書館協会としては、平成26年度にいわゆる研究プロジェクトを立ち上げたいというご意向でした。それは何についてかということ、一つは情報を扱う能力、情報リテラシーということに関して何ができるか、ということ県内の図書館みんなで作ろうというプロジェクト。もう一つは地域の資料のデジタル化あるいは教材化ということについて、みんなで議論し考えたいということが二つ。三つ目は県民の参加や協働をどうしたら促進できるか、ということ図書館協会として研究プロジェクトを立ち上げたいのだというお話がありました。特にメールで申し上げたのは、ぜひこの県立図書館の職員が、それをリードできるような形でそのプロジェクトを進めていただけないでしょうか、というお話をしました。図書館協会と県立図書館のあり方というのは、それぞれの県でさまざまございまして、長野県の場合はそういった企画的な指導的な役割を図書館協会が集約したという歴史的な経緯があるわけですが、今ここで県立図書館のあり方が求められているときに、県立の職員の皆さんがこれに参加せずに、あるいはリードせずに自ら変えられるか、あるいは県内の図書館を変えられるか、といえはやはり県立図書館の方が参加し、できるならばリーダーシップを発揮して欲しい。研修というのも何か教えるというよりは、いっしょに考える機会という研修研究と共同研究というようなニュアンスをぜひ加えていただけたらと思います。

<玉城会長>

今の問題は、具体的にたとえば図書館協会との連携という言い方は変かもしれませんが、つながりを強めるというようなことでしょうか。

<平賀委員>

つながりは今も強いと思うのですが、前回もちょっとお話ししましたが、昨年10月

ですか、前回の協議会の前日に静岡に行ったのですが、静岡の図書館協会と県立図書館は、もう少し渾然一体となった形で運営をしております、むしろ県立図書館の第一線の職員たちが、こんなことをしよう、あんなことをしよう、こういう勉強をしようという形で図書館協会もうまく組織を使いながら、県立図書館の県の予算を使いながら、全県の図書館の人的資源を集めて、たいへんいい姿だなと思います。そういった意味では、長野県の場合はそうした役割を図書館協会に丸々全部という、そういうお約束で始まった図書館協会のようなので、今そうなっていますが、非常に優秀な有能な職員の方もいらっしやって熱心に取り組んでいる、そういった人材が図書館と一緒に県立図書館の職員と一体で企画をし、廻していけるような、まずはそういうことを始めないと、成功体験を職員の皆さんに獲得をしていただかないと物事が進まないと思いますので、ぜひそういう形をお願いします。そういう意味では館長や管理職の皆さんが、図書館協会へ行っていっしょに考えて時間を使ってやってこい、という形で進められればいいのかと思います。

<塚田委員>

今の議論を聞いてこういうことなのかなあ、と思っているのですが、一番の公共図書館の中で相談職員の研修を行うことで図書館職員の資質を高めると、そのことによって二番目の課題解決の支援の能力を高めるというような理解でもよろしいんですか。

<平賀委員>

課題解決とかの図書館のあり方というのは、今まさにみんな考え始めているところで、誰かが誰かに何か教えるというよりは、いっしょに現実のことを考えながら議論して、どうしたらそういうふうになれるかという、議論をまずしなければいけない段階です。そこに積極的に県立の職員あるいは経営なさっている皆さんが参画していただきたいなと思います。

<塚田委員>

そうすると、さっきの銀座もそうなんです、銀座はどちらかというと2番にある情報発信というようなところにもかかわってくるのかなあ。すると、この1番と2番のくりをもうちょっと整理された方がいいかなあと感じはするんです。

<平賀委員>

1番はおそらく基盤となる人やその関係性について積極的に関わっていきますという意思表示かと思います。2番目は、その目的は課題解決をどういう方法で実現していくかということについての実践というかなあというふうに思います。それから三つ目もどういう方法で、という大きな大事な点。四つ目はそれで伝えることも中心に何があるかといえば、信州の地域の情報ですという、そういう仕分けをなさったのかなあというふうに思います。

<玉城会長>

私の印象だと、「企業経営無料相談会 in 県立長野図書館」は、新聞にも出ましたですけども始めてらっしゃるなあという印象を持ちました。たぶんこれは、課題解決型のひとつの取り組みとして県民にかなり周知されていくのではないかと思います、何回か積み重

ねていらっしやる間に。始まっていることもあるということを、もう一度他の図書館にも連絡する必要があるのかもしれませんが。知っている人は知っているんですが、知らない人は知らないという現実になっていると思います。

<若林委員>

関連しているかもしれませんが、この資料は、すっきりしていて要点がわかり易いです。課題解決支援というところの項目の中の、[こども読書情報]とか[メルマガ]とかの1行ですが、メルマガ、ブログというのは、ホームページを活用して発信力の強化も、わかりやすい方法としてとてもいい、もっとわかりやすくすると、内容を具体的に入れば説得力があると思います。学校現場から自分なりに考えますと、一つは図書館に関わって子どもたちと生活していますと困ることもあります。そこで読書情報を実際に図書館に携わっている人たちが、司書の方たちが、悩んでいることも相談で受け付けますよみたいなものがあったりとか。それと、季節感を大事にして、関連の本を持ってきて子どもに啓発していく部分もあるので、そういう内容の情報の発信を入れてもいいんじゃないかと思います。それから、学校と連携をとりながら、県立図書館と連携までもいかなくても情報の共有、今はパソコンでいくらも学校間の本に関する情報は探ったり、地域の図書館とも資料のやりとりもしている段階なので、その辺りも入っているといいと思いました。

それから、基本姿勢の表現で、県民の学びを地域・郷土に還元できるという、一行ですが、一気に文字が連ねられているので、「学びを」でちょっとひとマス開けると読みいいかと思います。「還元できる」という言葉は「還元する」でもいいのかなと、「できる」を強調しているんだと思うんですけど、「する」でも文の表現として落ち着くと思いました。

<玉城会長>

非常に具体的な提案もありますし、そういったさまざまな角度から検討して、今年度最後の会ですので。一応ここで他にもうちょっとご意見を求めて、なかったら次の事業との連動もありますので実施事業の方へ入っていただいてまた戻りたいと思います。いったんよろしいでしょうか。

<平賀委員>

では再びですけど、小さいことです。ひとつは情報発信力強化は、ぜひ双方向で。県立長野図書館のファンを作っていくということが大事だと思うんです。たとえばフェイスブックのようなソーシャルネットワークオブサービスを使うとか。例えば阿部知事はそれで自分が何か書けば強制的に読む相手先を4,878人、今もっているわけですから、少なくとも何か書くと、4,800人に確実にメルマガとかとは違って見られる。伊藤教育長も400人近い、そういう相手先もっています。ぜひそういう双方向の情報というものを。それから事業評価については来年度作成ですというお話しでしたが、図書館の事業評価という話は割と定型なものが日本図書館協会等、あるいは長野県図書館協会が出してくれていますけども、ぜひこれに沿った形で、いたずらに数とか、割合とか数字だけではなくて、もっと満足度であるとかあるいは協働を誰とどれだけ新たに作り出すのかという、

基本姿勢に応じた評価資料というものをおつくりいただきたいなというふうに思います。

<玉城会長>

大事な要請だと思います。また、これはご検討いただくということでよろしいでしょうか。今すぐに即答ということも言えないと思います。よろしくお願いします。

では、次の方に入って、25年度事業実施状況についてご説明、お願いします。

(3) 県立長野図書館の平成25年度事業実施状況について

事務局資料説明後、質疑応答および意見交換

<玉城会長>

これで、25年度事業実施状況の報告はよろしいでしょうか。では、これについて2点、資料情報課と企画協力課の方で出していただきました。いかがでしょうか。ご質問等ございませんでしょうか。

<平賀委員>

たぶんこの数字をみてもみなさん分からないと思いますので、役割は違いますけども、私どもの市立図書館の数字の比較をさせていただくと、たとえば図書館の資料ですけど予算が2,800万位ですね。そして今年、年間12,000冊買うということです。伊那市立図書館は県内では多くなくて真ん中くらいの予算規模ですが、約1,000万で約5,000冊です。ですからあまり大きな違いはないくらいの中で、県立図書館として選書なさっているということを思い比べなければと思います。それから資料の内訳ですけども、私ども先ほど年間5,000冊くらいしか買わないと言いましたけど、そのうち1,500冊は児童書です。3倍近い児童書を買っています。そうすると年間630冊しか買わない児童書の図書室ってどういう意味があるのかなと、根本的に考えるべき水準を割っているのではないのかなと私は思います。それから入館者数です。私どもが同じ期間、3月末までで約23万人の方が入館しています。県立図書館っていうのはそういう意味ではふらっとくるという場所でもないということです。人口7万人の伊那市と同じ程度の入館者だということです。それから貸出状況の中で、これはまた、貸出ということに着目すると実は不思議なことに市町村図書館と似通っておりまして、文学や絵本がここで4割を占めているということですね。市町村はもう少し多くて、貸出という局面でみると、資料数とはかわりなく、人が借りているのは文学ということだと思います。というようなわけで、人口7万人の町の図書館と外形的な使われ方というのは、ほぼ同じ規模の図書館なんだということをご理解いただきたいし、その中で限られた予算の中で非常にご苦労なさっているのは、本の買い方なんですけども、それが非常にみてとれて大変だなあとと思います。ただその中でも先ほど申し上げました児童書、どうなのかという気が僕はすごくします。それから7割の方が長野市民だとおっしゃいましたね。他の地域では、広域連携することによって町の図書館が物流も本も共有していく仕組みを作っております。今回システム更

新してしまいましたけれども、部分的にも少なくとも長野市とのシステムや物流の共有化をすることで、児童書のあり方をまったくなしにするということではなくて、非常に焦点を絞った児童書の展示をし、貸出目的のものはここでも長野市立図書館の本が受け取れますよ、というような可能性もあるわけで。そういうことの中で選書の集中・選択ということを進められる必要があるのかなというふうに私は感じます。それからもうひとつの企画展の方ですが、今回、共同事業として進められたということで、ぜひ、この社団法人経営支援機構だけでなく、町の中にたくさんそういうこの起業創業に関しての情報提供をしたい事業者さんいらっしゃいます。うちの図書館も目の前に政策金融公庫がありまして、いっしょに起業創業の情報提供をしましょうということをお願いして、そのとき私どもといたしましては、政策金融公庫さんだけでなく商工会議所もあるいは行政もそれから信用保証協会ですとか、つながりがあるわけですので、ひと声かければ彼らみんな集まってくる。そんなふうな形でこれをどんどんふくらませていただいて、ある意味、県内のみんなから見て県立図書館で起業創業、テーマっていうのは非常に盛んに取り上げられているね、という、そういう企画がいいなと思いますので、ぜひみなさん、あちこちにお声掛けをして増やしていければいいなと思ってお聞きしました。

<小林委員>

企画展なんですけども、私もこれに関わりまして、企画展、毎回いろいろなことで企画していただくのですが、この企画展というのは、県立図書館に来館される方とか、興味をもっている方たちの希望される企画展というのは募集されたことは今までないんでしょうか。

<池田企画協力課長>

そういう形ではとってないと思います。満足度アンケート調査ではどんな企画展をやってほしいかということはありません。

<小林委員>

ちょっと方向が違っちゃうかもしれないんですけども。企画展をされる希望を取ったところに、一般の方がどうしても勧めたい私の一冊みたいなね、そんなような募集のしかたでも私はいいと思うんですよ。私は、絵本とか扱っていてそうなんですけど、司書の方はどうしても偏ってしまうような。そういったことが往々にしてあります。本を扱っている方は、みんなそうなんですけど、やっぱりその中でも私はこれを見せてあげたいとか、書いてあるっていうものも募集してもいいのでは。企画展の中にひとつの枠として。

<松本館長>

たとえば「私のお奨め本コーナー」とかね。

<小林委員>

そうですね。自らの推薦の本ということでやったり。私はブックデザインで選ぶんだったら、これまでは図書館の関係されている方ばかりかもしれないけども、デザインだったらもっと違う視点から見たものがあったり、いろんなものがあると思います。そういっ

たものも募集して何点か飾るということも開かれた図書館のひとつになるのではないかと
思うんですけども。

<田中委員>

企画展をなぜやるかというところが私、今ひとつ理解できていなくて。ここの図書館の
中にある本を使えば、これだけのことがわかりますよという意味合いなのかどうかという
部分。この企画展をやるにあたって、県立図書館がこれだけいっしょけんめい考えてこ
ういうものが、ということを出してきているかと思うんですが。それもちょっとわかって
いなくてすみません。場合によっては、県内あちこちのそれぞれの図書館で企画展をいろ
んなことをやっているかと思うんですね。すごく評判がよかったよという企画展をそのま
ま取り上げて、ここの図書館ではこんなすばらしい企画展をやっていたんですよというこ
とをこんど県立図書館で紹介してあげる。そうすると、企画するところの努力、そこに人
を割くことは少なくなくて済んで、しかもその図書館を県内に宣伝してあげる。こんなすばら
しい図書館がありますよってという宣伝もできて、また、すばらしい企画だったということ
で人も集まれるということもあるかなあとと思いますが。目的がもうひとつちょっとわかっ
ていないので、すみません。

<池田企画協力課長>

目的としては、県立にある図書を紹介して本を読んでもらうように貸出もするという
ことになります。

<玉城会長>

今、お二人のご意見は来年度以降に向けて、非常に具体的で建設的だと思いますので、
ぜひ取り込んでいただければと思います。

<平賀委員>

今の事に関連して。企画展ということですが、長いこと図書館っていうのはあまり意図
をもって本を選んだり、見せたりということはしないっていうのは、どうもしみついでい
るようであります。ただ、今起こっていることはむしろ、何々図書館、誰々が選んだ本で
ある。しかもそれはどういう読み解きか意味づけをした本であるということを見せていく
場にならなければ、図書館の本のあり方っていうのはもはや振り返られなくなってしまう
だろう、というような流れです。先ほどおっしゃったようにいろいろなところの紹介する
ことも大事なんですけど、この図書館の誰がというところまでいったん行くかどうか、や
はりここにある資料を読み解くということを日々やるという、自分が意識的にやっていく
という、自分で企画してどんな小さなものでもそこで見せていくということが非常に大事
な事かなというふうに思います。開いていくってことなんですけど、なかなか丸投げが難
しいんですね、どういう人がどういうものを持ち込んでくるのは。そういう意味では、
もしおすすめの本があったらという形で参加していただくということかなあとと思います。
一方では町の中にたくさん出版社もあれば本屋さんも古本屋さんもあって、そこでおもし
ろい本を選んでおもしろく見せているところが、長野市の場合、たくさんございますよね。

そういうところとつながることで、逆に今もあそこでこんなこと、こんな展示をやっていますよとお知らせするとか、まわりのそういうところと県立図書館がつながることで、町全体でみんなが関わっている感を出していくというのもひとつの手なのではないかなあと、市立図書館ともそういう形で手が結べれば一番いいのかなと思うのですけど。

<池田企画協力課長>

追加でいいですか。今2階の一般図書室の企画展をご説明させていただいたんですが。1階の児童図書室でも毎月設定したテーマに関係した本の展示、貸出も行っております。玄関ホールでは、季節に合わせた飾りつけや夏休みのしらべ学習コーナー等も設けたりしております。

<玉城会長>

児童書の選書の集中選択、これなかなかむずかしいことかと思えますけれども。この辺も含めて、これから選書という図書館の特徴をつくっていくことでもありますし、ぜひお願いします。私からも質問があるのですが、インターネット予約貸出というのは、他の県でもやってないし、児童書も含めてやれば親がやって子どもに貸してやるという線もでてくると思いますので。どんどん宣伝したらいかがでしょうかね。県立長野図書館、こんなことやっているんですよ。それはお金がかかってたいへんになるというお話も承ったんですけど、どうですかね。他の図書館も喜ばれるんじゃないですかね。ここにあるものをどんどん貸してくれるとすれば。

<平賀委員>

手間はぜんぜんかからないんですよ、現場は。市町村図書館は届いたものを来た人にお渡しするだけですから、なにも事務的な処理をするわけではないので。

<館長>

梱包郵送の手間はかかりますが。

<平賀委員>

それはありますね。ただ、日常的に相互貸借をやっていますので、負担ではないんです。今市町村図書館が整備されていますので、そんなに多く増えるということはないと思うんですよね。むしろ、どうなんでしょう、出ていく本というのは、専門的に何かを調べたいとかいう本が多いのでしょうか。

<北原資料情報課長>

市町村図書館にないものがやはり多いと思います。

<玉城会長>

児童書とか、そういうものはないんですか。

<松本館長>

その辺もチェック自体がなかなかむずかしくて。例えば、要望の本が伊那図書館にあるかどうかみたいな話から始まってやっていると大変になりますので、リクエストがあれば一応送っているという現状です。基本的には市町村図書館にある本は送らずに図書館で借

りていただいたり見ていただければいいんですが、極端なことをいうと、人気があつて借りられないみたいな、そういう話もありますが、ただ、当館はそういうベストセラーは意外と少ないので。ただ、非常に私もびっくりしましたが、他の県ではなかなか手を出したがないんだけど、図書館が往復送料を出すというのは、やはり長野県の地域特性というのがあつて、思い切って実施したと思うので、ぜひ大事にしていきたいし、また宣伝もしていかないといけないと考えています。

<玉城会長>

お願いします。じゃあ、25年度についてはまた最後のところで振り返るということで、26年度事業予定をお願いします。

(4) 県立長野図書館の平成26年度事業予定について

事務局資料説明後、質疑応答および意見交換

<玉城会長>

26年度事業実施予定。では、これについてご質問、ご意見等ございますでしょうか。

<塚田委員>

この事業実施予定っていうのは、一般に、たとえばインターネットで一般に知らしめるとかそういうことは可能ですか。ここだけの資料ですか。というのは、この今後のあり方についての取り組むべき方向性と具体的取り組みという、この項目に合わせてきちっと書いてあつて非常にすばらしいと思うんだけど、ただ、資料情報課と企画協力課っていうのが図書館にあるのが今日初めて知ったけど、そこがダブリで書いてあつて、もし一般に知らしめんならば、一本にまとめてやっておくべきじゃないのかなと感じます。この項目ごとにきちっと書かれているのは、非常にこれを尊重してできているんですけども。一般の人にしてみれば、協力課だろうが情報課だろうがそんなことどうでもいいことだよということになっちゃうので。言い方が悪いんですけど、一本化して知らしめるのだったらその方がいいのかなという感じがします。

<須田次長>

またそのあたりは、統一化するような形でもう一度資料作成をしておして、公開するという形にしたいと思います。

<玉城会長>

資料そのものは非常にいいというご意見だったので、その辺だけひとつよろしく。ほかに。

<若林委員>

はい。私、先ほど言ったところを具体的に言っていたらあつたと思うんですけど。最初の、このところに少し具体的に例として入れていただけると、ずっとわかりいいなということを感じました。それから集約と発信っていう漢字で書いてありますので、きつと、そこら辺もホームページにのせていただくときにわかりやすくやっていただけると、お話しを聞いていてありがたいなあっていうか、実際に子どもといろいろやったりしてい

るときにほしい情報がけっこうあったので、それを具体的にホームページにのせていただくのはありがたいなと思います。

<田中委員>

同じホームページのところなんですけれども。ホームページに子ども読書情報館を開設っていうことで。わっ、すごいなと思ったんですね。で、どんな内容なのかなど、私の中でイメージしたときに、小学生とかでもう、パソコンをいじったりする授業が入ってくるじゃないですか。だから県立図書館に行ってみようねって言って、あっ、こうだよっていうふうになるような、そういうところを想像していたんですけど、これは大人向けだったのですね。やはり子供たちがどんどんパソコンをいじってネットの中で県立図書館に入りこめるような、そういうところがあっていいんじゃないかなあとと思います。

<池田企画協力課長>

今度のホームページには子どものページというのもつくりまして。ひらがなで書いたり、漢字のところにふりがなをふったりという形の子どもさんが読まれるページもつくってあります。

<田中委員>

そうなんです。で、ホームページ上で情報収集するっていうのは難しいと思うんですよ。言葉の使い方だと思いますが、ホームページって情報発信するのみで、集めますよってなるとまた話が違うと思うので。ちょっとこのところわかりやすく分けてもらえたらいいのかなあとと思います。一つの案として子どもたちに県内のあちこち図書館をまわってもらって。あの図書館、こうだったよって、子ども探検隊みたいなのが図書館訪問みたいに探検しようとか言って。そんなことの情報県立図書館のホームページにぼんと乗っけることで、どこの市のなんとか図書館こんなに楽しいよとか。それは子どもたちから見て、あっ、いいねっていうようなそういうのもおもしろいんじゃないかなあと思ったんですけども。それぞれの図書館、ホームページ持っているんですが、それを全部、県立図書館の中で長野県内の図書館を紹介しますっていうのを子どもたちにやらせる。それを今度、学校にお願いして探検隊員、学校のこのなんとか小学校、何名か出してなんとか図書館に聞いてみてとかいうような感じでやるとまた、たぶんその出した子どもはホームページにくるでしょうし、親もホームページを見るでしょうし、近所の人やら親戚やらみんなホームページ見るかもしれない。ちょっと広がって、県立図書館がまたひとつの情報発信の場になるかなあなんて想像してみたんですけども。

<玉城会長>

いかがでしょうか。たいへんおもしろいって言ったら失礼ですが、取り入れていただければなあとと思います。

<松本館長>

われわれの発想にないことで、非常に参考になります。

<須田次長>

後でお話ししようと思ったんですが、あり方の案の後に、他の団体等との協働、今後検討する事業素案というのがあります。その中で、我々の中で検討したときにホームページの使い方というときに、今、田中委員さんがおっしゃったようなこと、我々だけでホームページを作り上げていくということではなくて、外部の方を、参加型のホームページというものをいろいろ考えたらどうだという意見が出ました。それはホームページに関心を持たせるということに関して、非常にいいなあということで。参加型の構成というものをこれからは検討していこうということで。今、おっしゃったような話の内容になるかどうかわかりませんが、いろいろなメルマガとかブログとかそんなような部分のところから外部の方の声を入れていく。外部の方をお願いをする。そういうような形をこれからは少し取り入れていきたいなというふうに思っています。そのときにまたいろいろとお知恵をお借りしたいと思います。そんな形でこれからも検討してまいりたいと思います。

<玉城会長>

非常にわかりやすく他団体等との協働を今後検討する事業素案としてあげていただいている中のひとつですね。

<須田次長>

その2ページですね。下のところにページが書いてあります。2ページ目のところにホームページ、メルマガ、ブログによる発信機能の充実という一番右側の方に、どんな形で協働を検討していきたいかということの中に、参加型の構成を検討し、多くの利用者等に関心をもってもらおうという、こんなような案が中から出ましたので、これからどんなふうにしたらいいかということは検討してまいりたいと思っています。

<玉城会長>

よろしいでしょうか。では他に26年度事業予定で。

<小林委員>

先ほどの子ども読書情報館の件なんですけれども、やはり、これはホームページだけではなくて新聞とかそういったところに、すべてがすべてパソコンを開いてホームページを見るわけでないと思うんですよ。ですので、もう少し人の目に見られる新聞とか、そういったものに新しく始めたものとして、こういったものを活字として見えるような形で皆様にコマーシャルをしていくということもすごく大事だと思うんです。それともうひとつ、お願いなんですけど、私、図書館職員ステップアップの方の講師をしているもので。去年は、来られた方が図書館の職員ではなくて、学校図書館の司書の方が大変多く、ブックトークの研修をするんですけれども、図書館職員の方はブックトークをする機会がないっていう、そういった概念が、設定があるものでなかなかお見えにならないんですけれども。今、図書館職員でもここになにかいい本がありますかと言われたときに、5冊並べなくても1冊でもいいから自分の好きな本をちょっとブックトークしてみるとか、そういったことの研修もできるので、人数を増やしていただきたいというお声掛けをしていただきたいんです。ただ研修は協会のほうと提携してやるんですけれども、そのとき図書館の職員としてのそ

ういったものの研修もやってくださいということで、立場を越えてお勉強をしていただきたいと思います。

<玉城会長>

ありがとうございました。よろしいでしょうか。

<松本館長>

前段の部分は確かにみんながホームページ見られるわけではないので、新聞もいいですし、たとえば図書館ニュースみたいな工夫をしていければと考えます。毎月というわけにはなかなかいかないけど、1年に1回でも2回でもなんか工夫してみたいと思います。

<小林委員>

あの、始めましたよっていう、ね。

<松本館長>

始めましたよっていう部分はパブリシティも含めてぜひお願いしたいと思います。それから、後段の部分は確かに、先ほど協会のお話もあったんですが、ちょっと、館によって偏りがあったりですとか、やはり、かなりこっちから積極的にお勧めしないとイケないと考えます。まあなかなか、県下の公立図書館の職員の皆さんもお忙しいし、そういう意識が、較差があるといいますか、関心のある方とない方がいらっしゃるの。できるかぎり、まず関心をもってもらっていただくことが大事だと思いますので、そんな取り組みを協会と一緒にやっていきたいです。

<小林委員>

お願いいたします。

<若林委員>

良い企画だと思うので、図書館大会の前に、学校各1人で集まる会議を活かして担当者に伝えていただくといいです。

<松本館長>

学校図書館部会ですね。

<若林委員>

そうですね。各校一人で全部集まるので。活用ということ考えると、学校は毎日パソコンで仕事をしているので、見ることはたやすいと思います。それで活用も広がっていくので、そこで伝えていただくといいかなあということを思います。とてもいい企画だと思います。

<玉城会長>

具体的な意見でした。他26年度についてよろしいでしょうか。

<田中委員>

私、レファレンス事例集というのはあまり見たことがないのですみません。これ、当館のホームページのレファレンス事例集を追加していくということですよ。

で、それぞれの図書館にやっぱりこういうレファレンス事例集っていうのはいっぱいあ

るかどうか、知りませんが、あちこち図書館でそれぞれなんか作っているのであれば、それをこう、同じ連携という中ではいただいて、ここだけじゃなくって、県内いろんなところのそういう事例集があるのであれば、それをまとめると一気に情報が増えるような気がするんですけども。その辺どうなんですか。他の図書館では、こういうレファレンス事例集というのを作っているんですか。

<平賀委員>

国立国会図書館がレファレンスデータベースというものを持ってまして、それを各館がそこに登録していけば、日本全国どこからでも見れる状態になるんですね。それを活用するということももちろんなんですけど、その限界っていうのもお感じになってのことだと思うので、どういう持ち方をして、どういう見せ方をするのか、誰に見せるのかということ次第ですよ。市町村図書館になると、それぞれレファレンス記録ものは、たぶん、町村、どこまでかはわかりませんが、持っているとは思いますが、それを集約するっていうこともできなくはないけれども、どれだけニーズがあるかなあとも思います。いわゆるレファレンス目的のために使う形が非常に少ないんじゃないですか。おやりになるのは別にそんなにお金がかかる話でもないし、レファレンスデータベースにしても子ども向けホームページにしても、まあ、子ども向けホームページはけっこうお金がかかるのかなあって、ちょっとお話し聞いていて思いました。それを県立図書館さんがやるのかなあという思いもありますけれども。まあ、やれることはやればいい。

<玉城会長>

たぶん、(2)は長野県信州に関わる相談事例っていうふうに限定されているんだと思うんですね。国会のはたぶんこちらでも使えるということは十分あると思いますので、この辺はとにかくどの程度あるかも含めてやってみてという方向性だと思いますので、お願いします。次に、満足度調査をしていただいておりますので、調査結果について、ご説明をお願いします。

(5) 満足度調査について

事務局資料説明後、質疑応答および意見交換

<玉城会長>

前は数値的なものが出てきて、今回はホームページにも掲載していただいているものをプリントアウトしていただいたということでございます。なにかこれについてございましたらお願いします。

<平賀委員>

はっきり言ってもっと便利に、もっとたくさんという話がほとんどで、これにいちいち関与しなくたってというのは僕の持論です。でも、インターネットで情報をとりたいというのは、これは目的がなんなのか、ちょっとよくわからないので、なんとも言えませんが。確かにインターネットで検索したり、あるいは、商用データベースの環境とかっていうのはそんなに十分ではないと思うんですよ。この辺について、システム更新とかと合わせ

てなにかいっしょに投資されるというようなことはあるんですか。今後の予定は。

<須田次長>

いまのところありません。

インターネットのパソコン台数に関しては、今のところ今の台数でということですが。データベースの部分に関しては全国的にも県立長野図書館は非常に種類が少ないということで、四十数番目という形です。予算がつかないということでいままでずっと待っていたんですが、予算がつかない以上は我々の方でなんとかしなきゃいけないだろうという考えがありまして。それを図書資料を削ってでも入れてったらどうかということは、担当課と話をしている最中でありまして。予算がつかないからずっとそのまま今の状態をそのまま放っておくということはちょっとまずいんじゃないかなという思いがありますので、少し検討させていただきたいと思っております。

<北原資料情報課長>

インターネット台数の関係もありまけど、今、平賀委員さんがおっしゃった目的につきましても、見てますとほとんどが、一日いらっしゃる方が繰り返し時間をおいて見られると。あそこで情報を仕入れる方はそんなに数が多くありません。あと、フィルターをかけてあり、入れないサイトが多すぎるという御意見も。動画をぜひもっと見たい人だとか、あるいはゲームをやったりとかですね。あまり本来こちらで期待するような、ということはおかしいですけれども、図書資料以外の情報収集のために、パソコンを使うというふうでないのが実態です。インターネット喫茶のようなつもりで、無料でできるみたいなイメージの方もいらっしゃるのが現実じゃないかと思っています。サービス台数としては、4台ということで維持していくことを考えております。

<松本館長>

今の方針はそういうことですが、ただ、私は全部、自由記載のところ、書いてあるのを、目をとおしましたけれども、やはり肝心なのは、ワイファイの環境ですとか、時代は変わっていて、図書館だけ使えないっていうのはいつまでも説明できることではないのかな、とも思います。現実ではいろんな問題も課題もあって、タッチの音すらうるさいという方ももちろんいらっしゃるわけです。やはり、一番使いたいのは勉強している皆さんだとも思いますし。携帯電話もよく言われるんですが、今のところ、下の1階のロビーに降りていただかないと使えないというようなこともあって。いろんなそういう環境は、時代が変わってきているので、常に頭におきながら、先の事は考えていかなきゃいけないなという気はかなりしました。ただ、すぐっていうのは、なかなか難しい問題もあります。足音すらうるさいという方もいらっしゃいます。それと、今の図書館に来られる目的として、居場所ということもあるわけで、何が求められているかということは、常に頭の中に入れておく必要はあるな、とも感じました。

<塚田委員>

すいません。教えていただきたいのですが、CDとかDVDの話がのっているんで

すが、ここに書いてあるように、不特定多数の人に図書館が貸し出すものというのは、一般の人が買うよりも高くなっちゃうんですか。

<北原資料情報課長>

著作権法、権利保護がございますので、当然、個人が自分でかける分には大丈夫なんですけども、最初から図書館から貸出という前提であれば、保証金を払わなければいけません。これに上乘せをした価格でなっております。たぶん、2倍、3倍、へたすると、ビデオなんかは十万円とかするものもございますし。やはり、図書館向けは高くなります。

<松本館長>

県内図書館でも、CDとかDVDの充実している図書館もありますが。

<塚田委員>

それは、市立図書館なんか、けっこう落語とか、音楽とかね、CDを置いてあるんで。じゃあ、あれも結局、高いお金払って買ってるってことですか。

<北原資料情報課長>

逆に、壊しちゃった場合、弁償どうするかっていうのもまた問題になります。自分で個人で買って持ってこられても、それ使えませんので。

<塚田委員>

ありがとうございます。

<玉城会長>

著作権法の問題で面倒なことがあるんですよね。はい、よろしいですね。では次に、その他の方に移ってよろしいでしょうか。その他、お願いします。

(6) その他

ア 業務用コンピュータシステムの更新について

事務局資料説明

<玉城会長>

では、耐震化工事もいっしょにお願いします。

イ 耐震化工事について

長田総務課担当係長、口頭説明。

<長田総務課担当係長>

総務課担当係長の長田です。資料はありませんので、口頭で説明させていただきます。県の施設の耐震化工事につきましては、順次行われておるわけですが。本図書館の耐震化工事は、平成26年度、来年度ですが、今年の秋ごろ予定されております。本館の耐震指数は、割合高くて、工事自体は小規模なものになっております。具体的には、本館につきましては、地下に耐震壁を2か所設置と。書庫等につきましては、1、2階の開口部、窓ですね。それを閉塞するのを8か所。あと、屋上の煙突補強工事と水槽の載っている台の補強工事を行います。従いまして、建物の外観的には、ほとんど変化ありません。書庫等の1、2階の窓が塞がれるというところはありますが、もともと書庫等の窓は小さく作っ

てありますので、外観的には、現在とあまり変わりません。後期は、設計施工が県庁の施設課というところで行いますので、そこで見積ったところ、だいたい2か月ということですが。音とか振動が出る工事期間が、1か月くらいあるだろうということでございまして、その間は、休館対応を考えることになるかということ。具体的に何月に休館かということは、だいたい10月くらいを見込んでおりますが。その10月に、どの程度休館になるかということは、今後施設課でできます、詳細な工事工程表をみながら、施設課の工事担当とこちらとで調整していくことになると思います。それから、先ほどあり方検討委員会でもありましたが、施設の老朽化ということがございますので。現在ですね、身障者トイレの改修工事、3階部分を行っております。平成26年度は、身障者トイレの1、2階分。それと、排水管の交換工事を予定しております。この設計につきましても、施設課で行っておりますので、時期的には、耐震化工事を行う秋ごろにいっしょに行ってしまうのがいいかと思われますので。詳細につきましては、施設課の設計が出来上がり次第、また、調整していきたいと思っております。それで7月に協議会が開催されますので、その時にまた、ご説明をしたいと思っております。以上です。

<玉城会長>

ありがとうございました。その他について、2点、ご説明いただきましたけれども、これ以外にその他はありますか。よろしいでしょうか。

<須田次長>

すいません。先ほど説明を抜かした部分がありまして。先ほど申し上げましたように、他団体との協働を今後検討する事業という素案というのをお出しをしておりますが。これに関しては、前回、会長さんの方から図書館の事業として、細かいものをお出ししましたんですが、その中で、他団体とのいろいろと協力しあいながらできるようなものを分けてみたらどうだということで、ご提案をいただきましたので、内部で検討をしてこの資料にまとめました。これは、素案ということですので、これからこの案の中に含まれている事業について、どういった形で外の方と、外部の方と、公共図書館の方とも含めて、どういう形で協力しあっていくかということは中でまた検討しながら具体化をしていきたいなというふうに思っておりますので、そのあたりが決まりましたら、またおりおり皆さんにご説明をしたいなというふうに思っております。以上です。

<玉城会長>

ありがとうございました。残っていた資料についてご説明していただきました。他に、どうですか。いかがでしょうか。

<須田次長>

今、工事の中で、今度、7月の協議会というふうに申し上げましたんですが。こちらの年間行事予定の中で、一応、次回の協議会を7月の末頃、セットしたいなというふうに思っております。恒例では、9月の終わりから10月の初めごろいつもやっておりましたが、どうもそのあたりのところで年度の事業を話しをするというと、ちょっと遅きに失してい

るような感がしておりますので、来年度からは、前半の7月あたりのときにお示しをしながら、これから、どういう事業を行っていくかということをご意見をご頂戴したいというふうに思っております。一応、7月の終わりのころを目途に、こちらの方でも計画をしてまいりたいというふうに思っておりますので、よろしくお願いいたします。

<玉城会長>

その他でなければ、5分か10分くらいになりますけども、意見交換という、この項目がとってあります。今日で3回目ですけども、職員の方とも1回お話しさせていただいて、ま、4回この協議会をさせていただきました。それで、まだ、これは落ちているよ、これはちゃんとやるといったほうがいいよというのがあるかもしれませんので、意見がございましたら、意見交換という項目がありますので、ちょっと時間はオーバーしてはいますが、いかがでしょうか。

(7) 意見交換

<平賀委員>

コンピュータシステムの更新が今回ありましたけど。これ、5年に1回ベースで県立の場合、非常に高額な仕組みだとは思いますが。ぜひ、先ほどのデジタル仕様の問題とか、デジタルベースの活用の問題とかありますし、先ほどの児童書の問題とか、相互のやり取りというようなお話も申し上げましたけども、次回のシステム更新に向けては、なるべく県内の公共図書館の知見のある方々と、仕組みはどうあるべきかというお話を早い段階から進めていかなければならないと思います。それに合わせて、先ほどの商用データベースですとか、そういう話もしていただきたい。今回も、先ほどちょっとおっしゃいましたけど、ここに書いてないけど、非常に費用の掛かるデジタルアーカイブの維持の仕組みもこの中に取り組みされたようです。それが、単に、県立図書館だけが使う仕組みならばいいですけど、そうじゃないとすれば、どういうものであれば他の図書館が使いやすいかということも、やはり検討しなければいけない。これはもう、次、5年って決まっていますので、早い段階で県下の図書館と一っしょに研究していく態勢を整えていかなければと思います。

<玉城会長>

たぶん、他の団体との協働を今後検討する事業の中にも、視野に入れられていらっしゃることをもう一度、確かめていただいたんだと思います。他に、ございますでしょうか。

<小林委員>

よろしいですか。4月のお話しフェスティバルが目前に迫っているんですけども。毎年、私どもの会が運営をしてまいりましたが、集まる子どもたちの親子の人数がとても少ないということが、毎年、少ないのが更新されているんです。宣伝の仕方ということも、もう一度、ちょっと考えていただいて、形骸化するのではなく、せっかく1年に1回しかここでやらないのだから、もう少し、なんとか集める方法ってないのでしょうかということも毎年思うんです。なにかのところで、信毎に出していただくとか、その告知をするそ

の形っていうものを工夫していただきたい。知っている人は来るけど知らない人は来ないっていう。だいたい毎年来る人は同じになってしまうというのはまずいと思うんですね。せっかく、子ども読書の日に合わせてやっているの、そのところをもう少し、なんとか力を入れていただきたいと思います。それと、親子読書推進の会がここでやっぱり解散ということになるので、これからの子ども読書推進計画に合わせて、子ども読書のためのその計画、足に地の付いたものをちゃんとした形でお出しただけだと思います。よろしく願いいたします。

<玉城会長>

他に、要望やご意見等も含めて、いかがでしょうか。あるいは今日のご説明の中で、これは忘れていたというようなことがございましたら、それも含めて意見交換ということでお願いします。よろしいでしょうか。では、ちょっと司会の進行もありまして、10分、予定を超えてしまいました。熱心なご意見、それこそ忌憚のないご意見、ありがとうございました。

<須田次長>

ありがとうございました。3回の協議会、それから、それ以外にもう1回お集まりいただいて、臨時にやらせていただきましたけど、計4回、委員の皆さんと我々と意見交換という形で、こういう会を今年度は持って参りました。非常にありがたいなというふうに思います。今回をもちまして、今年度の協議会を閉じたいと思います。お疲れ様でした。ありがとうございました。